第 30 回フィッション・トラック研究会実施報告

大平寛人

第 30 回研究会は 2006 年 1 月 13 日～14 日に防災科学技術研究所・セミナー室にて開催されました．会員・非会員あわせて 28 名の皆さんに出席いただき，20 件の一般講演が用意されました．断層活動や古地磁気などのテクトニクス分野から，環境中の微量元素挙動，ジルコンの微量元素やメタミクト化などの幅広い応用分野，また精度の高い TL 年代や ESR 年代，U-Th-He 年代などの応用研究も紹介されました．さらに、地道な実験の積み重ねによる ^{238}U の核分裂壊変定数の決定は，今後の FT 年代測定のあり方に大きなインパクトを与える内容でもありました．

研究会に先立って，山田さんほか防災科研の皆さんの案内で，大型降雨実験施設や振動破壊実験施設など所内の大型実験施設を見学させていただくことができました．

特別講演は国土地理院の山際敦史氏によるもので，GPS による地殻監視システム（GEONET）とその応用であるリアルタイムの減災システムの可能性について詳しく紹介いただきました．研究会後のエクスカーションでは国土地理院の「地図と測量の科学館」を見学することができました．

防災科研セミナー室にて

高感度地震観測網（Hi-net）のオペレーションルームの見学（防災科学技術研究所）

宿舎は防災科研から車で 15 分ほどの豊里ゆかりの森「あかまつ」で，木造二階建てのカナディアンロッジ風の快適な宿泊施設でした。お弁当，お酒，おでんを持ち込み，とても家庭的な懇親会となりました．部屋では深夜まで FT の話題に花を咲かせ，会員どうしの親睦を深めることができました．

参加者（所属）

山田隆二（防災科研），檀原　徹，吉岡　哲（京都 FT），雁澤好博，東　剛，篠原　緑（北海道教育大），星　博幸（愛知教育大），角井朝昭，竹内圭史（産総研），中里裕臣（農業工

学研究所），伊藤久敏（電中研），西村　進（京都自然史研）安間　了（筑波大），本多照幸，鈴木美咲，坪井麻里子，後藤仁美（武蔵工大原研），長谷部徳子，伊藤一充，伊藤健太郎，荒武康治，住田亮輔，荒田孔明（金沢大），大平寛人，三角寿，覚本真代，根木大輔（島根大），山田国見（京都大）

宿舎での懇親会はとても家庭的な雰囲気でした

部屋に戻ってからも遅くまで盛り上がりました

総会報告

1．次期会長は，防災科研の山田隆二氏に引き受けていただけることになった．また役員は会長を中心に決めていただくことになった．FTNL 編集委員長は金沢大学の長谷部徳子さんに引き続き引き受けていただけることになった．幹事と編集委員は，会長，FTNL 編集委員長を中心に検討していただくことになった．

2．2004 年度の会計報告について承認された．また 2005 年 4 月から 2006 年 1 月までの会計状況もあわせて報告された．地質学会（京都）でのブース出展の印象がよかったこと，また FTNL 郵送費の節約についてメール便などの利用の提案があった．

3．原子炉問題については京大原子炉共同利用が 18 年度–19 年度にかけて停止することが報告された．また 19 年度以降の再開については 1MW 運転であること，Pn での照射についてはカドミ比が変わる可能性について指摘があった．また原研機構東海研究開発センターでの共同利用照射がさほど増えていない現状について報告があった．

あかまつの前での記念撮影（寝坊された方すみません）